

ごりんどういせきだいにごうかそう ぼしゅつどいぶつ
「五輪堂遺跡第2号火葬墓出土遺物」

- 指 定 千曲市指定有形文化財（考古資料） 昭和 61 年 1 月 27 日
- 所 在 地 千曲市教育委員会収蔵庫
- 所 有 者 千曲市教育委員会
- 概 要 (1) 土師器
杯① 口径 12.8 cm、器高 4.1 cm
杯② 口径 12.9 cm、器高 4.8 cm
(2) 灰釉陶器
椀③ 口径 12.3 cm、器高 3.6 cm
椀④ 口径 15.9 cm、器高 5.0 cm
小瓶⑤ 口径 4.3cm、胴部最大径 7.7 cm、器高 10.8 cm
長頸壺⑥ 口径 10.7 cm、胴部最大径 13.8 cm、器高 20.2 cm
- 時 代 平安時代後半、11 世紀後期
- 銘 文 等 土師器の内黒の杯②の器体外面には『豊封符』と思われる 3 字と灰釉陶器の椀④の高台見込には『月』と見える字が墨書されている。
- 公 開 非公開

五輪堂遺跡は、千曲川の中洲とみられる微高地上に位置する弥生時代から中世に至る遺跡です。昭和 56 年（1981）、長野県屋代南高等学校体育館建設に伴う発掘調査により、南面する方三間と思われるお堂跡の前方脇から検出された遺構が第 2 号火葬墓です。南北 130 cm、東西 95 cm の長方形、深さは（検出面から）25 cm の墓穴で、この内部に 2 枚の平石の間から多量の火葬骨が検出されました。

遺構は建設工事のため破壊されましたが、詳細な記録と貴重な遺物群は残されました。



出土した遺物群 左から (1)・(6)・(3)・(5)・(4)・(2)